

テーマ：子供の体験活動 対象：安芸高田市在住・在勤者 主催：安芸高田市教育委員会生涯学習課

H-⑨あきたかた市民セミナー 知りたいがわかる！はじめてのキャンピング講座

地域を学ぶ		地域でつながる	○	地域に還す	○
-------	--	---------	---	-------	---

1 学習プログラムの展開

日 程	場 所	事前準備・学習・活動内容
7月～9月	向原生涯学習センター みらい	事前【講師打合せ・準備等】 <ul style="list-style-type: none"> ・講座のゴール設定と細かなねらいの共有 ・講座対象者についての確認 ・参加者へ提供したい内容（スキル）、押さえない部分の共有と、講座内容に必要な資料の選定、配布資料の作成
9月11日(日) 10:00～12:00	安芸高田市民文化センター クリスタルアージュ	当日【学習・活動内容】 <ul style="list-style-type: none"> ○キャンプに必要な知識・技能を学ぼう <ul style="list-style-type: none"> ・実際のキャンプをイメージしながら、自分だけのオリジナルキャンプシートを作る ・準備物、服装やルール、いざという時の安全等について知る ○キャンプのツールについて学ぼう <ul style="list-style-type: none"> ・様々なキャンプ用品に触れ、自分に必要なものを考える ・様々なキャンプ用品の使い方を知り、自分で用具をそろえるときの参考にする ○キャンプで使えるロープワーク <ul style="list-style-type: none"> ・実践で使えるロープの結び方を学ぶ ・ロープワークを使ってパラコートキーホルダーを作る
9月下旬		事後【アンケート結果や当日の様子共有】 <ul style="list-style-type: none"> ・参加者の声を講師にお伝えし、課題や今後の展望をはっきりさせた



対 象	・安芸高田市に在住 または通勤・通学している方
経 費	・参加費：子ども300円 大人500円 ・材料費：1人100円 ・講師料：独立行政法人職員の派遣のため不要
連携先	独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立山口徳地青少年自然の家

問合せ先

安芸高田市教育委員会生涯学習課
〒731-0501 安芸高田市吉田町吉田 761
電話：0826-42-0054 ファクシミリ：0826-42-4396

2 講座設定の理由（学習の目的）

アウトドアには子育てや環境教育、ストレスの緩和、コミュニケーションツールなどとして様々な効果があることが知られ、近年、感染症の影響もあり殊に注目が集まっている。また、キャンプには個人から地域・団体まで幅広い楽しみ方があり、その効果は大きい。しかしながら活動マナーや環境に関わる課題も取り上げられるようになった。そこで、実際にやってみたいがよくわからない、知りたいことはあるが学ぶ機会がないという方に、用具や服装・安全管理など自分に必要な知識・技能と、それだけでなく、他者配慮としての基本的な活動マナーや未来の子どもたちのためにできる Leave No Trace（リープノートレイス）などの環境に配慮した活動方法を学んでもらいながら、講座後、実際に楽しんでアウトドアへの一歩を踏み出してもらうことを目的とした。

※Leave No Traceとは、環境に与えるインパクトを最小限にして、アウトドアを楽しむための環境倫理プログラムです。

3 学習目標

- 自分の知りたいことや欲しい情報と共に、実際のアウトドアに必要な基本的知識や技術を知る。
- 講座以降の情報収集方法なども含め、正しい活動方法に触れ続けられる機会を得る。
- 講座後に実際に計画を立てたり準備に取り掛かかったりできる意欲や自信に繋げる。

4 事前に必要な知識や準備物

- アウトドア初心者のニーズや知り得ておくべき情報
- 幅広い野外活動の基礎知識を持った講師
- 実際に触れてもらう為の、アウトドアで使う必要最低限+ α の実際のギア（道具）

5 留意点

- できるだけ多くのギアに触れてもらうために会場に様々なキャンプギアを用意しておくが、それを見た初心者がたくさんのギアが必要なのではないかという不安を抱かないよう、講義前に個人に必要なものが参加者によって違うためにたくさんあることを伝えておく。
- たくさんのギアを置くため、安全に配慮し配置を工夫する。
- 話しやすい雰囲気にするため机の配置に配慮し、質問しやすく、隣人とも会話しやすい場を作る。

6 成果

- 過去のセミナーでは参加したことのない年代と性別の人が多く参加していた。
- 積極的に質問される方もおられ「気軽に何でも質問出来てよかった」との声があった。
- 講座後に「この後すぐに娘とお店に行きます」という声が聞かれた。
- 「環境に配慮する方法など今まで意識したことのない知らなかった世界を知ることができてよかった」という感想をもらうことができた。
- 次にこんなことやあんなことを学びたいという意見を頂き、次に繋げやすい講座となった。

7 課題

- 広報段階でチラシの持ち帰りは多かったが申し込みに繋がる件数が少なかったことから、講座の内容や対象が魅力的かつはっきりと伝わるような講座名の設定や内容紹介文にする必要があった。
- これまでの講座ではあまり参加されていなかった年齢の方が多く、子ども連れの方もおられた。それに伴い、子どもが賑やかで不快に感じられる参加者もおられたため、急遽別室に子ども用の部屋を用意した。事前説明や事前の配慮に改善の必要がある。

8 今後に向けて

- 図書館、市内のキャンプ場、アウトドア施設と連携し市独自の情報提供できる場を作るなどの工夫をする。
- 屋外で開催し、できることを増やすなど、参加者からの要望に応えた応用編などの講座を開催する。